

故 手嶋正毅教授略歴・主要著作目録

略 歴

- 一九一三年二月一五日 横浜で生まれる。
- 一九三二年 三月 松江高等学校文科乙類卒業
- 一九三五年 三月 京都帝国大学経済学部経済学科卒業
- 一九三五年 四月 満鉄総務部資料課
- 一九四七年 四月 配炭公団大阪配炭局業務部統計課
- 一九五一年 三月 大阪府商工経済研究所嘱託
- 一九五二年 四月 大阪市立大学経済研究所嘱託
- 一九五三年 六月 広島県立産業労働科学研究所主査
- 一九五四年 七月 広島大学講師（教育学部福山分校）
- 一九五七年 三月 広島大学助教授（皆実分校）
- 一九六三年 四月 広島大学教授（教養部）
- 一九六四年 四月 立命館大学経済学部教授

一九六四年 十月 京都府教育委員兼務

一九七〇年 四月から
六月まで 立命館大学経済学部長

一九七〇年 六月 経済学博士

一九七〇年八月一三日 胃潰瘍のため、西宮香雪病院にて死去

主要著作目録

※一九四三年三月 『中支の民船業』

(第2章(第3節2を除く)、第4章第2節、博文館)

※一九五二年三月 『日本の繊維機械工業』

(第1部、第2部、大阪府商工経済研究所)

※一九五三年六月 『大阪における鉄鋼業・綿織物工業の実態』

(序章、第4章、第5章(小結)、大阪市立大学経済研究所)

九月 『仁方ヤスリ工業の諸問題』

(《経済季報》 一卷一号、広島県立産業労働科学研究所)

十月 『広島県における鋼造船業と下請工業』

※一九五四年 十月
〔《經濟季報》 一卷一号、広島県立産業労働科学研究所〕
〔工業における生産様式と経済諸法則〕

※一九五五年 四月
〔《工業経営》 五卷一号〕
〔資本主義と社会主義の経済政策〕

※一九五六年 三月
〔《政治学講座》第二卷、政治原理(下)、理論社〕
〔日本鋼造船業における下請制の研究〕

四月
〔《工業経営》 六卷一号〕
〔現代資本主義の基本的経済法則と残存社会経済要素・固有の経済諸法則〕

十二月
〔《経済評論》 昭和三十一年四月号〕
〔近代産業と地域社会(ユネスコ)〕

※一九五七年 二月
〔第三部第一章、近代産業の導入とその展開、§1—1・2、§2—1・2〕
〔“資本主義の社会形成理論”の意義と限界について〕

二月
〔《広島大学《教育学部紀要》第一部》
〔マニユファクチュア生産諸形態〕

三月
〔《工業経営》七卷一号〕
〔下請中小工業の生産様式と経済法則〕

〔日本経済政策学会編『戦後各国の経済政策の検討』勁草書房〕

※一九五七年十二月

「戦後日本資本主義の構造変化」

(《経済評論》昭和三十二年十二月号)

※一九五八年七月

「賃金法則と同一労働同一賃金」

(《経済評論》昭和三十三年七月号)

十二月

「備後織物工業の地域的社會經濟構成」

(《工業経営》八卷二号)

※一九五九年一月

訳書、マルクス『資本主義的生産に先行する諸形態』——訳者ノート

(大月書店)

六月

「日本のマニユ研究における基本的諸問題」

(《歴史学研究》二三〇号)

十一月

「等級制賃金の理論」

(《経済評論》昭和三十四年十一月号)

※一九六〇年二月

「封建社会解体期の産業資本とマニユ賃労働の範疇」

(《歴史評論》一九六〇年二月号)

十一月

「備後地方における綿織物マニユファクチュアの歴史」上・下

(《企業経営》十卷一号・二号)

※一九六二年六月

「金融的軍事的従属国(日本)とその経済的土台」

(《經濟評論》昭和三十六年六月号)

十一月 「国家独占資本主義の内的論理」

(《經濟評論》昭和三十六年十一月号)

「戦後日本における国家資本」

(《工業経営》十一卷二号)

「国家独占資本主義の法則性——現代修正主義批判」

(《經濟》一号)

「国家独占の諸形態と国家の役割」

(《經濟セミナー》八三号)

「国家独占資本主義の基本概念」

(經濟理論学会『独占資本主義の研究』青木書店)

「現代資本主義と利潤率傾向的低落の法則——独占と技術革新」

(《立命館経済学》十三卷三号)

「戦後日本における経済的・政治的発展の不均等性」

(《經濟評論》十三卷十二号)

「日本経済の構造」

(『講座・社会科学教育・政治経済Ⅱ』柳原書店)

六月 「国家独占資本主義の研究手法」

（《立命館経済学》十四卷二号）

九月 「国家資本主義」「南滿州鉄道株式会社」

（『経済学辞典』岩波書店）

※一九六六年 三月

「戦後独占資本の集積と機構」

（『マルクス経済学講座・第四卷』有斐閣）

四月

「利潤率低下の阻止要因としての独占の意義と限界——私的独占より国家独占への移行
法則として」

（《立命館経済学》十五卷一号）

九月 「帝国主義と植民地半植民地従属国」

（『マルクス経済学体系・第三卷』有斐閣）

九月 「帝国主義の矛盾と全般的危機」

（『マルクス経済学体系・第三卷』有斐閣）

九月 「帝国主義矛盾と両体制間矛盾」

（『マルクス経済学体系・第三卷』有斐閣）

※一九六七年十二月

「日本国家独占資本主義論」

（有斐閣）

※一九六八年 二月

「過渡期における国家資本主義の諸形態」

(《立命館経済学》十六卷五・六号)

四月

「経済学の基礎——所有の歴史」

(「はじめに」、第一部1章・2章、第Ⅲ部1章、「おわりに」、有斐閣)

四月

「中国における国家資本主義・賃金制度にかんする諸問題——往復書簡の抜萃」

(《立命館経済学》十七卷・一号)

五月

「国家独占機構の形成・展開」

(『現代の経済と統計——蜷川虎三先生古稀記念』有斐閣)

十月

「マルクス『資本主義的生産に先行する諸形態(資本関係の形式または本源的蓄積に先

行する過程について)』上・中・下

(《経済》五四号・五六号・五七号)

※一九七〇年 二月

「高度成長過程における「自動安定装置」と国家所有(素描)」

(《立命館経済学》十八卷五・六号)